令６　養護教員　その１／18

1　学習指導要領について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年７月）第２章 第２節 保健分野 ２内容（２）心身の機能の発達と心の健康」の抜粋である。（ ① ）～（ ③ ）に当てはまる語句をア～コから選び、記号で答えなさい。

解答番号は①②③

イ　思考力,判断力,表現力等

心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し,疾病等のリスクを軽減したり,（ ① ）を高めたりすることなどと関連付けて,解決方法を考え,適切な方法を選択し,それらを伝え合うことができるようにする。

＜例示＞

・心身の機能の発達と心の健康における事柄や情報などについて,保健に関わる原則や概念を基に整理したり,（ ② ）生活と関連付けたりして,自他の課題を発見すること。

・心身の機能の発達について,習得した知識を自他の生活に適用したり,課題解決に役立てたりして,発達の状況に応じた健康を（ ③ ）する方法を見いだすこと。(以下、略)

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 集団 | イ | 保持増進 | ウ | 免疫力 | エ | 日常 | オ | 自己管理 |
| カ | 学校 | キ | 生活の質 | ク | 精神性 | ケ | 維持改善 | コ | 個人 |

(2) 次の文章は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成 29 年７月）第２章 第２節 保健分野 ２内容（２）心身の機能の発達と心の健康」の抜粋である。（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～カから選び、記号で答えなさい。

解答番号は④

ア　知識及び技能　(エ) 欲求やストレスへの対処と心の健康

④ 欲求やストレスとその対処

心の健康を保つには,適切な生活習慣を身に付けるとともに,欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解できるようにする。欲求には,（ a ）的な欲求と（ b ）的,（ c ）的な欲求があること,また,（ d ）的な安定を図るには,日常生活に充実感をもてたり,欲求の実現に向けて取り組んだり,欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどがあることを理解できるようにする。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 生理 | b | 心理 | c | 社会 | d | 精神 | |
| イ | a | 本能 | b | 心因 | c | 社会 | d | 精神 | |
| ウ | a | 現実 | b | 心理 | c | 生理 | d | 身体 | |
| エ | a | 内面 | b | 社会 | c | 本能 | d | 身体 | |
| オ | a | 心理 | b | 生理 | c | 精神 | d | 社会 | |
| カ | a | 生理 | b | 現実 | c | 心因 | d | 社会 | |

(3)「小学校学習指導要領（平成29年３月告示）第２章 各教科 第９節 体育 第２ 各学年の目標及び内容 第５学年及び第６学年 G 保健」で身に付けることができるよう指導すると記載されている内容をア～エから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑤

ア　不安や悩みへの対処には，大人や友達に相談する，仲間と遊ぶ，運動をするなどいろいろな方法があること。
イ　精神と身体は，相互に影響を与え，関わっていること。欲求やストレスは，心身に影響を与えることがあること。また，心の健康を保つには，欲求やストレスに適切に対処する必要があること。
ウ　現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。
エ　心や体に関する正しい理解を基に，適切な行動をとり，悩みや不安に向き合い乗り越えようとすること。

(4)「中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年７月）第２章 第２節 保健分野（３）傷害の防止 ア 知識及び技能」に記載されている内容をア～エから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑥

ア　適切な応急手当は，傷害や疾病の悪化を防いだり，傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また，自他の生命や身体を守り，不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには，一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに，自ら進んで行う態度が必要であること，さらに，社会の救急体制の整備を進めること，救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。
イ　日常生活で起こる傷害や，熱中症などの疾病などの際には，それぞれに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを，実習を通して理解し，応急手当ができるようにする。
ウ　心肺停止状態においては，急速に回復の可能性が失われつつあり，速やかな気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること，及び方法や手順について，実習を通して理解し，AEDなどを用いて心配蘇生法ができるようにする。その際，複数人数で対処することがより有効であること，胸骨圧迫を優先することについて触れるようにする。
エ　傷害が発生した際に，その場に居合わせた人が行う応急手当としては，傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に，周囲の人への連絡，傷害の状態に応じた手当が基本であり，迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。その際，応急手当の方法として，止血や患部の保護や固定を取り上げ，理解できるようにする。また，心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては，気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）使用の心肺蘇生法を取り上げ，理解できるようにする。

2　健康診断について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、学校保健安全法施行規則である。（ a ）～（ h ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～カから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑦

学校保健安全法施行規則第七条第六項

前条第一項第九号の心臓の疾病及び異常の有無は、（ a ）検査（ b ）検査によつて検査するものとする。ただし、幼稚園（特別支援学校の幼稚園部を含む。以下この条及び第十一条において同じ。）の（ c ）幼児、小学校の第（ d ）学年以上の児童、中学校及び高等学校の第（ e ）学年以上の生徒、高等専門学校の第（ f ）学年以上の学生並びに大学の（ g ）学生については、（ h ）検査を除くことができる。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 心電図 | b | その他の必要な | c | 一部の | d | 五 |
| | e | 二 | f | 三 | g | 一部の | h | 心臓 |
| イ | a | 心電図 | b | その他の臨床的医学的 | c | 全 | d | 二 |
| | e | 二 | f | 二 | g | 全 | h | 心電図 |
| ウ | a | 心臓 | b | その他の必要な | c | 全 | d | 五 |
| | e | 二 | f | 三 | g | 一部の | h | 胸部Ｘ線 |
| エ | a | 心電図 | b | その他の臨床的医学的 | c | 一部の | d | 五 |
| | e | 二 | f | 二 | g | 一部の | h | 心臓 |
| オ | a | 心臓 | b | その他の予診的事項に属する | c | 全 | d | 二 |
| | e | 三 | f | 二 | g | 全 | h | 運動負荷心電図 |
| カ | a | 心臓 | b | その他の予診的事項に属する | c | 全 | d | 五 |
| | e | 二 | f | 三 | g | 全 | h | 心電図 |

(2) 次の文章は、心臓に関して述べたものである。（ a ）～（ e ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑧

心臓は、４つの部屋と、それぞれの部屋につながる４種類の主な血管からできている。心臓に戻る血液を運ぶ血管を静脈（（ a ）と肺静脈）、心臓から出ていく血液を運ぶ血管を動脈（大動脈と肺動脈）と呼ぶ。

体静脈血と（ b ）は、全身で酸素が消費された酸素含有量が少ない血液であり、肺静脈血と（ c ）は、肺で十分な酸素を受け取った酸素含有量が多い血液である。

心臓は、全身の細胞に酸素と栄養を送り届けるポンプの役割を果たしている。また、規則正しい心臓の動きを司るのが、刺激伝導系であり、（ d ）の上の方にある（ e ）からリズムとりの刺激が発生している。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 体静脈 | b | 大動脈血 | c | 体静脈血 | d | 右心房 | e | 房結節 |
| イ | a | 体静脈 | b | 大静脈血 | c | 体動脈血 | d | 右心房 | e | 洞結節 |
| ウ | a | 大静脈 | b | 肺動脈血 | c | 大動脈血 | d | 左心房 | e | 洞房結節 |
| エ | a | 大静脈 | b | 肺動脈血 | c | 大動脈血 | d | 右心房 | e | 洞結節 |
| オ | a | 大静脈 | b | 大動脈血 | c | 大静脈血 | d | 左心房 | e | 房結節 |

(3) 次の表は、学童期によくみられる心臓病について説明したものである。症状等の説明のうち、適切でないものをア～オから選び、記号で答えなさい。　　解答番号は⑨

| 記号 | 名称 | 症状等の説明 |
|---|---|---|
| ア | 心房中隔欠損(ASD) | 心房中隔に孔があいているため、肺から左心房にかえってきた血液の一部が左心房から右心房に流れ、全身から戻ってきた血液とともに右心房・右心室に流れ、正常より多くの血液が肺血管に流れる。このため右心房・右心室の縮小が生じる。 |
| イ | WPW 症候群 | 心電図の QRS 波の始まりに特徴的な波（デルタ波）を認めるものである。発作性上室頻拍を起こすことがある。運動で発作性上室頻拍が誘発される場合には運動制限が必要である。 |
| ウ | QT 延長症候群 | 心電図上 QT 時間が長く、かつ、突然、特有の心室頻拍や心室細動が出現し、失神や突然死する可能性のある疾患である。運動や水泳が心室頻拍の誘因となるタイプが多い。 |
| エ | 川崎病 | 原因不明であり、発熱、発疹、結膜の充血、口唇および口の粘膜の発赤、四肢末端の変化、リンパ節の腫脹などを認め、血管炎を起こしている症状とされる。後遺症でもっとも多いのは冠動脈瘤であり、突然死が報告される例もある。 |
| オ | 心筋症 | 家族性（遺伝性）であることが少なくない。心不全、不整脈、運動中の突然死、血栓症などが問題となることがあるので、必ず専門医の指示に従って管理すべきである。 |

(4) 次の文章は、心臓の疾病及び異常の有無の検査の留意事項について述べたものである。適切な説明でないものをア～ウから１つ（解答番号は⑩）、エ～カから１つ（解答番号は⑪）選び、記号で答えなさい。

ア　調査票は心疾患有無の抽出・既往歴に関する重要な情報源である。記載の正確性が児童生徒等の日常生活管理の安全性を大きく左右するものであるため、児童生徒等の保護者に記入を依頼することが必要である。

イ　児童生徒等は、初めて検査を受けることが多く、不安がったり緊張したりすることがあるため、事前に心電図検査の目的とその方法を説明しておくことが重要である。

ウ　学校で行う心電図検査には外部の雑音や反響は影響しない。場所は、静かな場所よりも児童生徒が速やかに集合できる利便性を優先する必要がある。

エ　心電図検査よりも児童生徒等の学校教育活動を優先する必要があるため、心電図検査直前に体育の授業やスポーツ活動をしていてもかまわない。

オ　検査には、心疾患のある児童生徒等を早期に発見し、適切な指導を行い、心臓突然死を可能な限り、未然に防ぐ目的がある。そのために、有所見者を専門医に紹介し、学校生活管理指導表の指導区分に従った指導を行う等が必要である。

カ　過度の運動制限にならないように、学校生活管理指導表の指導区分を十分に把握して、学校での心臓突然死の予防に努める。

(5) 次の事例を読み、小学生Ａが、より安心で安全な学校生活を送ることができるよう支援するために、あなたは養護教諭として、どのような対応をするか、適切でないものをア～ウから１つ（解答番号は⑫）、エ～キから１つ（解答番号は⑬）選び、記号で答えなさい。

【事例】

小学生のＡは、学校の心電図検査で不整脈が発見された。その後、保護者から学級担任と養護教諭へ連絡があり、「専門医を受診したところ、心室期外収縮と診断を受けた。学校生活管理指導表をもらい、指導区分Ｄと指示を受けた。」ということであった。

保護者はＡの突然死をとても心配しており、「学校生活では保護者が管理できないため全ての運動をさせたくない。しかし、Ａは、体育の授業や運動が好きなため、どうしたらよいかわからない。」と申し出があった。

| | |
|---|---|
| ア | 何故このような生活が必要なのか、専門医から本人や保護者にどのような説明があったのか確認する。 |
| イ | 次回受診日を過ぎても受診がない場合、Ａの健康状態や家庭の状況によっては、必ずしも受診を勧めなくてもよいが、Ａの健康状態を丁寧に観察する。 |
| ウ | 日頃から、学校、保護者、主治医（専門医）、学校医等が、緊急時や必要時に相互に連絡できる体制を整える。 |
| エ | 保護者の心配を取り除くため、学校から直接関係機関に連絡をとり、細やかな内容を確認する。 |
| オ | 同級生が理解できるように保護者の了解を得た上で、Ａの疾病について指導する。 |
| カ | Ａの様子を注意して観察及び情報共有し、健康状態に問題があるときは、早めに専門医の受診を勧める。 |
| キ | 校内研修で心肺蘇生法（AED も含む）やシミュレーション訓練を実施する。 |

3 学校環境衛生活動について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、照度検査方法等について述べたものである。適切でないものをア～エから１つ（解答番号は⑭）、オ～キから１つ（解答番号は⑮）選び、記号で答えなさい。

| | |
|---|---|
| ア | 毎学年２回定期に行う。必ず暗い雨の日と明るい晴天の日の２回実施する。 |
| イ | 学校の授業中等に、各階１以上の教室等を選び検査を行う。 |
| ウ | 測定位置は、教室では机上、教室以外では床上 75 ㎝を原則とする。 |
| エ | 窓側等で照度計に直射日光が当たる場合は、カーテン、ブラインド等で遮蔽したときの照度も記録しておく。 |
| オ | 教室の照度は９か所、黒板の照度も９か所で測定し、それらの最大照度、最小照度で示す。 |
| カ | 測定者は、測定時の着衣に注意する。服装は、白っぽいものを着用する。測定時の位置、姿勢についても照度に影響を及ぼさないように注意する必要がある。 |
| キ | テレビやスクリーン面では中央部分の垂直照度を測定する。テレビの画面等のわん曲している場合もできるだけ照度計を表面に密着させて形状に合わせて測定する。 |

(2) 次の文章は、揮発性有機化合物の検査について述べたものである。適切なものをア～カから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑯

ア　ホルムアルデヒドは毎学年１回、教室等内の温度が低い時期に定期に行う。
イ　トルエン、キシレンは毎学年１回定期に行うが、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレンについては、必要と認める場合に毎学年１回定期に行う。
ウ　ホルムアルデヒドの基準値は、令和３年４月から 870 μg/㎥以下から 200 μg/㎥以下に見直しされた。
エ　検査時は教室の濃度を外気濃度と同じ程度にするため、教室の窓、戸、戸棚等を開けて 30 分以上換気する。その後、開放した箇所を閉め、そのまま５時間以上放置する。
オ　空気の採取は、授業を行う時間帯に机上の高さで行う。採取は、原則として児童生徒等がいる状態で行う。
カ　机、いす、コンピュータ等新たな学校用備品の搬入等により揮発性有機化合物の発生のおそれがあるときは、臨時に必要な検査を行ってもよい。

(3) 次の文章は、風水害等により環境が不潔になり、又は汚染され、感染症発生の恐れのあるときの消毒について述べたものである。適切であるものを○、適切でないものを×とした場合、組合せとして正しいものをア～キから選び、記号で答えなさい。
解答番号は⑰

a　校舎等のまわりは、じょうろや噴霧器などで濡れる程度に散布する。屋外の壁面は、泥などの汚れを水で落としてから、消毒液を浸した布などでよく拭く。または噴霧器で噴霧する場合は、濡れる程度に噴霧する。
b　屋外の消毒薬には、クレゾール石けんやオルソ剤を用いる。
c　屋内で汚水に浸かった壁面や床、教具・備品等は、泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、希釈液に浸した布などでよく拭く。または噴霧器で噴霧する場合は、濡れる程度に噴霧する。その後は風通しをよくしそのまま乾燥させる。
d　屋内の消毒には、逆性石けんを用いる。エタノールと混ぜるとより効果的である。
e　後片付けなどで汚染された箇所や土に触れた手指は、汚れを石けんで洗った後、流水で石けんを落とし、洗面器などに入れた消毒液に手首まで浸し、30 秒以上もみ洗いをする。その後、そのまま乾燥させる。石けんが残っていると殺菌力が低下するので、よく洗い流すこと。
f　手指の消毒薬には、逆性石けんを用いる。
g　食器類は水洗いした後、消毒液に５分以上浸し、その上で自然乾燥させる。
h　食器類の消毒薬には、次亜塩素酸ナトリウム、または、次亜塩素酸水を用いる。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a ○ | b × | c ○ | d ○ | e × | f ○ | g ○ | h × |
| イ | a × | b ○ | c × | d ○ | e × | f × | g × | h ○ |
| ウ | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e × | f ○ | g ○ | h × |
| エ | a × | b ○ | c × | d ○ | e ○ | f × | g × | h × |
| オ | a ○ | b × | c ○ | d × | e × | f × | g ○ | h ○ |
| カ | a × | b ○ | c ○ | d ○ | e ○ | f ○ | g × | h ○ |
| キ | a ○ | b × | c × | d × | e ○ | f ○ | g ○ | h ○ |

(4) 次の文章は、環境衛生検査の記録等について述べたものである。適切でない箇所を（ア）～（オ）から選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑱

定期検査等を効果的に実施するためには、(ア) 施設・設備等を把握し、過去の検査結果を参考にする必要があることから、定期及び臨時に行う検査の結果に関する記録を検査の日から (イ) ５年間保存するよう努めるとともに、検査に必要な施設・設備等の図面等の書類は、(ウ) 必要に応じて閲覧できるように適切に保存する。

日常点検の実施の目的の一つには、それらの結果に基づいて定期検査や臨時検査の実施に役立てることがあることから、毎授業日に行う点検の結果は (エ) 記録するよう努めるとともに、その記録を点検日から (オ) ３年間保存するよう努める。

4 救急処置について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、歯のけがについて述べたものである。（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。解答番号は⑲

衝突や転倒の際に口やあごを強くぶつけることで、歯の脱落や、一部が欠けたり、歯根が折れたりすることがあり、（ a ）に達している歯折の痛みは（ b ）。（ c ）の（ d ）に多く見られる。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 歯髄 | b | 強い | c | 上顎 | d 前歯 |
| イ | a | 神経 | b | 弱い | c | 上顎 | d 前歯 |
| ウ | a | 歯髄 | b | 強い | c | 上顎 | d 犬歯 |
| エ | a | 神経 | b | 強い | c | 下顎 | d 前歯 |
| オ | a | 歯髄 | b | 弱い | c | 下顎 | d 犬歯 |

(2) 次の文は、歯のけがの手当てについて述べたものである。適切でないものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は⑳

| |
|---|
| ア　歯茎などからの出血はガーゼなどで圧迫して止血をする。 |
| イ　抜けた歯は「歯の保存液」もしくは牛乳に浸して歯科医師の診察を受ける。 |
| ウ　抜けた歯は、きれいに洗って速やかに歯科医師を受診する。 |
| エ　抜けた歯を持つときには、歯の付け根の部分を手で触れない。 |
| オ　歯が中にめりこんだ場合、後からまた出てくることが多いので、慌てず受診する。 |

(3) 次の文章は、マダニに刺された場合の対応について述べたものである。（ a ）～（ e ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉑

マダニはウイルスなどを媒介する場合がある。代表的なのは、SFTS ウイルスで、感染すると（ a ）を発症する。症状は発熱、おう吐、下痢、頭痛、筋肉痛などで（ b ）になる場合もある。

マダニの活動時期は（ c ）から（ d ）で、農作業やレジャーで森林や藪に立ち入る場合は、肌の露出を少なくする。

マダニに噛まれたら、無理に引き抜いたり、力づくで取ったりしないようにする。引き抜いたり、取ったりするとマダニの（ e ）が傷口の内部に残る場合がある。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 血球貪食症候群 | b | 血栓 | c | 春 | d 夏 | e | 足のとげ |
| イ | a | 重症熱性血小板減少症候群 | b | 意識障害 | c | 夏 | d 秋 | e | 足のとげ |
| ウ | a | 血球貪食症候群 | b | 血栓 | c | 春 | d 夏 | e | 口先 |
| エ | a | 重症熱性血小板減少症候群 | b | 意識障害 | c | 春 | d 秋 | e | 口先 |
| オ | a | 重症熱性血小板減少症候群 | b | 興奮状態 | c | 夏 | d 秋 | e | 口先 |

(4) 次の文章は、血液について述べたものである。（ a ）～（ f ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉒

心臓の拍動によって送り出された血液は、血管、毛細血管を通って体の隅々を巡り心臓に戻る。これを（ a ）といい、血液が体内を一巡するのに約（ b ）秒かかるといわれている。大人の体には約（ c ）Ｌの血液があり、体重のおよそ（ d ）％（（ e ）分の１）を占める。

血液の 75%は静脈内に存在し、20%が動脈内に、そして残り５％は（ f ）内に存在する。

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 血液の循環 | b | 20 | c | 4～5 | d | 8 | e | 13 | f | 毛細血管 |
| イ | a | 体液の循環 | b | 40 | c | 8～10 | d | 16 | e | 16 | f | 毛細血管 |
| ウ | a | 血液の循環 | b | 20 | c | 8～10 | d | 16 | e | 16 | f | 赤血球 |
| エ | a | 血液の循環 | b | 40 | c | 4～5 | d | 8 | e | 13 | f | 赤血球 |
| オ | a | 体液の循環 | b | 40 | c | 4～5 | d | 8 | e | 13 | f | 毛細血管 |

(5) 次の文章は、出血・止血について述べたものである。適切でないものをア～カから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉓

ア　出血とは、血液が血管外に失われることをいう。けがなどによって血管が破れることで生じる。破れた血管の種類により、動脈性出血、静脈性出血、毛細血管性出血に分けられる。
イ　動脈性出血は、拍動性に暗紅色の血液が勢いよく出る。静脈性出血は、鮮赤色の血液が比較的穏やかに出る。毛細血管性出血は、日常的に多くみられるもので、鮮紅色の血液がじわじわ出るように出血する。また、出血は血液が体表から外にでる外出血と、体の中に溜まる内出血とに分けられる。
ウ　一般的に体内の血液の20%以上が急速に失われるとショックと呼ばれる状態になるといわれている。
エ　止血の仕組みは、血管が破れ、出血する→血管が細くなり出血量を減らす→血小板が集まり血栓（一次血栓）を作る→一次血栓にフィブリノーゲンなどが作用し、強い血栓（二次血栓）ができ止血する。
オ　直接圧迫止血法は、出血部位にガーゼ、ハンカチ、タオルなどを当てその上から直接圧迫して止血する基本的な止血法である。
カ　圧迫しても出血がおさまらない場合は、圧迫位置が出血部位から外れていたり、圧迫する力が弱かったりすることなどが考えられる。

(6) 次の文章は、鼻出血について述べたものである。（ a ）～（ e ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。
解答番号は㉔

鼻出血の大部分は、鼻の入り口に近い（ a ）の（ b ）血管が外傷や血圧、気圧の変化などで腫れて出血します。
座って軽く下を向き、鼻を（ c ）つまむことで大部分は止まります。鼻出血の場合、頭を後ろにそらせると、温かい血液が喉に回り、苦しくなったり、飲み込んで気分が悪くなったりすることがあるので、（ d ）を向かせないようにする。
（ e ）を打って鼻出血がある場合は、止めようとむやみに時間をかけず、手当とあわせて直ちに１１９番通報する。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 鼻中隔粘膜 | b | 細い | c | 軽く | d | 下 | e 鼻部 |
| イ | a | 鼻中隔粘膜 | b | 太い | c | 強く | d | 上 | e 頭 |
| ウ | a | 鼻中隔粘膜 | b | 細い | c | 強く | d | 上 | e 頭 |
| エ | a | 外鼻孔 | b | 細い | c | 強く | d | 上 | e 頭 |
| オ | a | 外鼻孔 | b | 太い | c | 軽く | d | 下 | e 頭 |

(7) 次の文章は、骨折について述べたものである。適切であるものを○、適切でないものを×とした場合、組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㉕

a　非開放性骨折では、全身及び患部を安静にして、患部を固定する。(動かすと痛むため、手袋や靴、靴下などはそのままにしておく。)

b　骨折部が屈曲している場合、元に戻そうとすると、鋭利な骨の端が神経、血管などを傷つける恐れがあるので、そのままの状態で固定する。

c　開放性骨折では出血を止め、傷の手当をしてから固定する。(皮膚の外に出ている骨を元に戻そうとしない。)

d　患部や患部の上下の関節を固定して患部の動揺を防ぐことにより、次の効果がある。患部の痛みを和らげる、出血を防ぐ、傷病者が体位を変えたり移動したりする場合に、患部の動揺で新たに傷がつくことを防ぐ。

e　脊椎が骨折または脱臼すると、脊髄が傷つくことがある。脊髄が頸（第４頸椎）の上方で傷つくと、呼吸が止まる。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | a × | b ○ | c ○ | d ○ | e ○ |
| イ | a × | b ○ | c × | d ○ | e ○ |
| ウ | a × | b ○ | c ○ | d × | e × |
| エ | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e ○ |
| オ | a ○ | b × | c × | d ○ | e × |

(8) 次の文は、眼のけがの対応について述べたものである。適切でないものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㉖

| |
|---|
| ア　痛みの強さで障害の程度は、判断できない。 |
| イ　応急処置では、まぶたは無理に開かない。 |
| ウ　目に薬品が入ったり、目を火炎であおられたりしたときには、できるだけ早く多量の水道水で患部を下にして十分に洗う。 |
| エ　眼に消石灰が入った時はよく洗う。 |
| オ　眼のけがについて、全身症状が出ることはない。 |

(9) 次の文は、眼のけがについて述べたものである。適切なものをア～イから１つ（解答番号は㉗）、ウ～エから１つ（解答番号は㉘）を選び、記号で答えなさい。

| |
|---|
| ア　バスケットボールのような大きいものが当たると、眼球前部が傷害される。 |
| イ　バスケットボールのような大きいものが当たると、眼球後部が傷害される。 |
| ウ　シャトルのような小さいものが当たると眼球前部が傷害される。 |
| エ　シャトルのような小さいものが当たると眼球後部が傷害される。 |

5　感染症について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、学校保健安全法施行規則第二十一条である。（ ㉙ ）～（ ㉛ ）に当てはまる語句をア～ケから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉙㉚㉛

（感染症の予防に関する細目）

第二十一条　校長は、学校内において、感染症にかかつており、またはかかつている疑いがある児童生徒等を発見した場合において、必要と認めるときは、（ ㉙ ）に診断させ、法第 19 条の規定による出席停止の指示をするほか、消毒その他適当な処置をするものとする。

2　校長は、学校内に、感染症の（ ㉚ ）に汚染し、又は汚染した疑いがある物件があるときは、消毒その他適当な処置をするものとする。

3　学校においては、その附近において、第一種又は第二種の感染症が発生したときは、その状況により適当な（ ㉛ ）を行うものとする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ア　学校医 | イ　主治医 | ウ　保健所長 | エ　病原体 | オ　病毒 |
| カ　感染源 | キ　保健指導 | ク　環境整備 | ケ　清潔方法 | |

(2) 次の文章は、学校において予防すべき感染症の考え方について述べたものである。適切であるものを○、適切でないものを×とした場合、組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉜

a　各感染症の出席停止の期間は、感染様式と疾患の特性を考慮して、人から人への感染力を有する程度に抗体が排出されている期間を基準としている。

b　診断は、診察に当たった医師が、身体症状及びその他の検査結果等に基づいて行われるものであるので、学校から特定の検査等の実施(例えば、インフルエンザ迅速診断検査やノロウィルス検査)を求める必要がある。

c　感染症の拡大を防ぐためには、患者は、他人に容易に感染させる状態の期間は、集団の場を避け、健康が回復するまで治療や休養の時間を確保することが必要である。

d　第一種の感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の一類感染症と麻しんを除く二類感染症を規定している。出席停止の期間の基準は、「治癒するまで」である。

e　第二種の感染症は、空気感染、または飛沫感染するもので、児童生徒等のり患が多く、学校において流行を広げる可能性が高い感染症を規定している。出席停止期間の基準は、感染症ごとに個別に定められているため、これを遵守する。

f　第三種の感染症は、学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性がある感染症を規定している。出席停止期間の基準は、病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまでである。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e × | f ○ |
| イ | a × | b × | c ○ | d × | e × | f ○ |
| ウ | a × | b × | c × | d ○ | e ○ | f × |
| エ | a × | b ○ | c × | d × | e ○ | f × |
| オ | a ○ | b × | c ○ | d ○ | e × | f ○ |

(3) 次の文章は、腸管出血性大腸菌感染症について述べたものである。適切でないものをア～カから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㉝

ア　病原体は、腸管出血性大腸菌（O157、O26、O111 など様々なベロ毒素産生性大腸菌）である。熱に弱いが、低温条件には強く、水の中では長期間生存する。少量の菌の感染でも腸管内で増殖し、その毒素によって発病する。
イ　潜伏期間は 10 時間から６日である。
ウ　感染経路は接触感染、経口(糞口)感染である。生肉などの飲食物から感染する。少ない菌量(100 個程度)でも感染する。便中に菌が排出されている間は、感染力がある。
エ　症状として水様下痢便、腹痛、血便がみられる。なお、頻尿や出血傾向、意識障害は、溶血性尿毒症症候群や急性脳症の合併を示唆する症状であり、このような場合は速やかに医療機関を受診する。
オ　予防法は、手洗いの励行、消毒(トイレ等)、及び食品加熱である。洗える食品は十分に洗うことである。ワクチンはない。
カ　有症状者の場合には、医師において感染のおそれがないと認められるまで出席停止とする。

(4) 次の表は、第三種の感染症に分類されている「その他の感染症」の一部の説明である。適切でないものをア～エから１つ（解答番号は㉞）、オ～クから１つ（解答番号は㉟）選び、記号で答えなさい。

| | 感染症名 | 潜伏期間 | 登校の目安 |
|---|---|---|---|
| ア | ロタウイルス感染症 | １～３日 | 下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態の良い者は登校可能だが、回復者であっても、排便後の始末、手洗いの励行は重要 |
| イ | サルモネラ感染症（腸チフス、パラチフスを除く） | 主に 12～36 時間（６～72 時間） | 下痢が軽減すれば登校可能だが、排便後の始末、手洗いの励行は重要 |
| ウ | マイコプラズマ感染症 | 主に２～４日（１～５日） | 症状が改善し、全身状態の良い者は登校可能 |
| エ | 溶連菌感染症（主にA群溶血性レンサ球菌感染症） | ２～５日 膿痂疹は ７～10 日 | 適切な抗菌薬療法開始後 24 時間以内に他への感染力は消失するため、それ以降、登校可能 |
| オ | 伝染性紅斑 | ４～14 日（～21 日） | 発しんが消失し、全身状態の良い者は登校可能 |
| カ | ＲＳウイルス感染症 | ４～６日（２～８日） | 発熱、咳などの症状が安定し、全身状態の良い者は登校可能だが、手洗いの励行が重要 |
| キ | 手足口病 | ３～６日 | 全身状態が安定している場合は登校可能だが、手洗い（特に排便後、排せつ物の後始末後）の励行が重要 |
| ク | ヘルパンギーナ | ３～６日 | 全身状態が安定している場合は登校可能だが、手洗い（特に排便後、排せつ物の後始末後）の励行が重要 |

6 学校保健に関する組織活動について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、学校保健に関する組織活動の評価の観点及び内容について述べたものである。適切でないものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㊱

ア　教職員の協力体制が確立され、活動は円滑に行われている。
イ　学校保健に関する研修は、偶発的に起きた児童生徒の健康課題に際し、即時に実施する。
ウ　情報の把握及び提供やPTA活動の実施等、家庭との連携が密接に図られている。
エ　学校保健委員会が設置され、計画的に開催されている。
オ　関係機関・団体など地域社会との連携が、密接に図られている。

(2) 次の文は、学校保健委員会について述べたものである。適切でないものをア～ウから１つ（解答番号は㊲）、エ～カから１つ（解答番号は㊳）選び、記号で答えなさい。

ア　学校保健委員会は、昭和47年の学校保健法等の施行に伴う文部省の通知において、学校保健計画に規定すべき事項として位置づけられた。
イ　学校保健委員会は、学校における健康課題を研究協議し、健康づくりを推進する組織である。
ウ　構成員は、学校や地域の実情に応じて決めていることが多いが、その年度の方針に即した弾力的な構成にすることが大切である。
エ　企画・運営は、保健主事が中心となって行う。
オ　議題やテーマは、多くの意見が出て、活発な協議となるように抽象的なものにすることがよい。
カ　事後評価は、計画段階において学校保健目標を踏まえた達成基準や目指す児童生徒の姿を明示し、評価基準を設定した上で行う。

7 学校における性に関する指導の留意点について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、中学生期における心身の発育・発達等の特性について述べたものである。最も適切なものをア～エから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㊴

ア　自らの行動は自ら選択決定したいという独立や自立の要求が高まる。
イ　集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながら各自の責任を果たすことによって、集団や社会が成り立っていることを客観的に理解できる段階にある。
ウ　身体的にほぼ成熟し、男女それぞれの性的な特徴が明確になってくる。
エ　抽象的思考が発達し、具体的な出来事から離れて抽象的な思考ができるようになったり、自分の思考過程を自覚してそれを制御できるようになったりする。

(2) 次の文は、性に関する指導の配慮事項について述べたものである。適切でないものをア～エから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑩

| |
|---|
| ア　児童生徒の発達の段階を踏まえる。 |
| イ　学校保健に関係する職員間で共通理解を図る。 |
| ウ　家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得る。 |
| エ　集団指導と個別の指導の連携を密にして効果的に行う。 |

8　健康相談について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、健康相談の目的について述べたものである。（ a ）～（ e ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は⑪

学校における健康相談の目的は、児童生徒の心身の健康に関する課題について、児童生徒や保護者等に対して、関係者が連携し相談等を通して課題の（ a ）を図り、学校生活によりよく（ b ）していけるように支援していくことである。

心身の健康課題を（ a ）する過程で、（ c ）で（ a ）しようとする（ d ）につながることから、健康の（ e ）だけでなく教育的意義が大きい。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 解決 | b | 適応 | c | 自分自身 | d | 人間的な成長 | e 問題解決 |
| イ | a | 理解 | b | 対応 | c | カウンセリング | d | 資質能力の向上 | e 保持増進 |
| ウ | a | 理解 | b | 適応 | c | カウンセリング | d | 資質能力の向上 | e 問題解決 |
| エ | a | 解決 | b | 適応 | c | 自分自身 | d | 人間的な成長 | e 保持増進 |
| オ | a | 解決 | b | 対応 | c | 周りの支援 | d | 組織対応力の向上 | e 問題解決 |

(2) 健康相談の対象者として、適切であるものを○、適切でないものを×とした場合、組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は⑫

a　健康診断の結果、継続的な観察指導を必要とする者
b　保健室等での児童生徒の対応を通して、健康相談の必要性があると判断された者
c　日常の健康観察の結果、継続的な観察指導を必要とする者
d　健康生活の実践に関して課題を抱えている者
e　修学旅行、遠足、運動会、対外運動競技大会等の学校行事等に参加させる場合、全ての者

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e × |
| イ | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e ○ |
| ウ | a × | b × | c × | d × | e ○ |
| エ | a ○ | b ○ | c ○ | d ○ | e × |
| オ | a × | b × | c × | d ○ | e × |

(3) 次の文は、健康相談実施上の留意点を述べたものである。適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。　　解答番号は㊸

| |
|---|
| ア　保健室経営計画に位置付けて実施する。 |
| イ　相談は、特定の教職員で行う。 |
| ウ　学校医やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの医療的見地から行う場合は、事前の打合せを十分に行う。 |
| エ　家庭や地域社会との連携を図りながら実施する。 |
| オ　継続支援が必要な者については、校内組織だけではなく、関連機関と連携して実施する。 |

令６　養護教員　その 16／18

Ⅰ　次の摂食障害の事例を読んで(4)～ (7) まで答えなさい。

＜摂食障害の事例＞

中学校に勤務している養護教諭が、健康相談の対象者を把握するために、健康診断の結果（肥満度曲線）を確認していたところ、２年女子のＢの肥満度が昨年度は「普通」だったが、「やせ傾向」に変更していることに気付いた。Ｂは、身長 158 cm　体重 40.9 kg　肥満度 - 21.7 と「やせ」傾向がみられた。そこで、昨年の検診結果も調べたところ、体重 51.0 kg　肥満度 -0.9 と１年間で約８kgの体重減少が見つかった。

体育の授業中に貧血を起こし保健室を利用したときに、それとなく話を聴いたところ、「友人と比べて太っていると感じたので、昼食はサラダにし、夕食を抜くことでダイエットを試みた。はじめは順調に体重が減ったが、最近は夕食を抜いても体重が横ばいである」とのことであった。

養護教諭は、摂食障害の可能性を念頭に置きながらも、まずは、信頼関係の構築に心掛け、保健室利用の度にゆっくり話を聴く時間をとるようにした。特に体の不調がない時も保健室に立ち寄り、話をしていくようになった。並行して、この状況を管理職に伝え、学校医に相談し、健康相談を行った。学校医からは、貧血の身体的症状を取り上げて、受診するように勧めたが、Ｂは「病気ではない」と受診しようとしない。

(4) 摂食障害の指標となる肥満度と BMI（体格指数）を求める式である。（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものをア～クから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㊹

$$\text{肥満度} \quad \frac{(\text{（ a ）} - \text{（ b ）})}{\text{（ c ）}} \times 100 \qquad \text{BMI（体格指数）} \quad \frac{\text{体重（kg）}}{\text{（ d ）}}$$

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a | 実測体重（kg） | b | 身長別標準体重（kg） | c | 年齢別標準体重（kg） |
| | d | 身長（m）$^2$ | | | | |
| イ | a | 身長別標準体重（kg） | b | 実測体重（kg） | c | 身長別標準体重（kg） |
| | d | 身長（m）$^3$ | | | | |
| ウ | a | 実測体重（kg） | b | 身長別標準体重（kg） | c | 身長別標準体重（kg） |
| | d | 身長（m）$^2$ | | | | |
| エ | a | 実測体重（kg） | b | 身長別平均体重（kg） | c | 年齢別標準体重（kg） |
| | d | 身長（cm）$^3$ | | | | |
| オ | a | 年齢別標準体重（kg） | b | 身長別平均体重（kg） | c | 身長別平均体重（kg） |
| | d | 身長（m）$^3$ | | | | |
| カ | a | 身長別標準体重（kg） | b | 実測体重（kg） | c | 実測体重（kg） |
| | d | 身長（cm）$^3$ | | | | |
| キ | a | 実測体重（kg） | b | 年齢別標準体重（kg） | c | 年齢別標準体重（kg） |
| | d | 身長（cm）$^2$ | | | | |
| ク | a | 身長別平均体重（kg） | b | 実測体重（kg） | c | 身長別標準体重（kg） |
| | d | 身長（m）$^2$ | | | | |

(5) 次の文は、摂食障害について述べたものである。適切であるものを○、適切でないものを×とした場合、組合せとして正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。
解答番号は㊺

a　過度の食事制限や食行動の異常と体重や体形、食事に対する認知や感情の歪みが続く病気である。
b　遺伝的要因や出生前後の様々な環境要因が複雑に関係してかかる疾患である。
c　発症の主なきっかけは、ダイエットやストレス、胃腸の不調などによる食事摂取の低下、体重の減少である。
d　頻度は、男性は女性の 12 分の１程度である。
e　小学生から中学生の摂食障害のうち、ほとんどは神経性やせ症である。
f　回避・制限性食物摂取症は、食物の外見、色、におい、食感、温度、食べることや食物に無関心であることや、やせているのに丁度いい、太りすぎていると感じるなどの理由で、食物摂取を回避しおこる。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | a × | b × | c × | d ○ | e ○ | f × |
| イ | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e ○ | f ○ |
| ウ | a ○ | b ○ | c ○ | d ○ | e × | f ○ |
| エ | a × | b × | c ○ | d ○ | e ○ | f ○ |
| オ | a ○ | b ○ | c ○ | d × | e ○ | f × |

(6) 摂食障害で表れやすい症状のうち、当てはまらない症状があるものをア～エから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㊻

ア　寒がりになる、頭髪が薄くなる、食べる事への罪悪感が出る
イ　元気がなくなる、顔色が悪い、手が黄色い
ウ　低体温（35 度台）、うぶ毛が増える、空腹感が欠如する
エ　頻脈、便秘、皮膚や毛髪が乾燥する

(7) 次の文は、受診を拒否するＢへの対応について述べたものである。適切でないものをア～オから選び、記号で答えなさい。　解答番号は㊼

ア　生徒が困っていることを確認し、受診はそれを解決する糸口になることを伝える。
イ　「病院に行けばすぐに治る」と安心させる。
ウ　定期的に様子を聞いたり、バイタルチェックをしたりしながら説得する。
エ　検査をしなければ、体の中で何が起きているか分からないと伝える。
オ　生徒が信頼している学級担任に協力を仰ぐ。

Ⅱ　次の発達障害の事例を読んで(8)～(10)まで答えなさい。

＜発達障害の事例＞

中学１年男子Ｃは、授業中に少し興奮気味に保健室に来室した。体調不良で時々早退や欠席をしていた生徒であったため、そのことを含め、落ち着かせながら話を聞いたところ、友達にからかわれ、トラブルになって教室を飛び出してきたことが分かった。さらに、教師の一斉の指示が理解できず、みんなと同じ学習活動ができないことから、学校に行きたくないという訴えがあった。

Ｃは、読書好きで知識も豊富であるため、周りの生徒から認められている反面、自分の興味や関心のあることを質問し続けること、仲間関係を作ることに困難さがあった。

また、学習や活動に必要な物をなくしてしまうことが多く、教科担任から指導を受けることもあった。部活動では、卓球部に所属し、当初は楽しそうに活動していたが、一定の活動から次の行動に移れないことが多くなり、周りの動きについていけず、やめてしまった。登校を渋るようになると母親は欠席が続くことを心配し、毎朝車で送ってきて本人が教室に入るよう促していた。母親によれば、小学校低学年の頃にスクールカウンセラーからADHDの疑いがあると言われるも、治療等に結びつくことはなく、また、大きなトラブルもなく現在に至っているということが分かった。

(8) Ｃは、小学校低学年の頃にスクールカウンセラーからADHDの疑いがあると言われている。ADHDの特徴的な表れで最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㊽

| |
|---|
| ア　教師の一斉指示が理解できない |
| イ　自分の興味や関心のあることを質問し続ける |
| ウ　仲間関係を作ることに困難さがある |
| エ　学習や活動に必要な物をなくしてしまうことが多い |
| オ　一定の活動から次の行動に移れないことが多い |

(9) Ｃの表れのうち、ADHD以外に推測できる特性として、最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㊾

| | | |
|---|---|---|
| ア　広汎性発達障害 | イ　知的障害 | ウ　パニック障害 |
| エ　起立性調節障害 | オ　学習障害 | |

(10) 次の文は、特性のある子供の保護者と面談を行う時の留意点について述べたものである。適切でないものをア～エから選び、記号で答えなさい。

解答番号は㊿

| |
|---|
| ア　面談担当者には、個人情報に関する守秘義務があることを保護者に伝える。 |
| イ　医療や専門機関の支援の必要性を断定し、受診を強く勧める。 |
| ウ　保護者がうまく関わっている点を伝えるなどして、不安を和らげるような対応を心掛ける。 |
| エ　保護者のもつ情報が少なかったり、偏っていたりする場合には、適切な情報を提供する。 |

| 受験番号 | |
|---|---|

| 氏名 | 公開用解答 |
|---|---|



令６　養護教員

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 2×6 | (1) | ① | キ | ② | コ | | ③ | イ | | | | | | | | | | |
| | (2) | ④ | ア | (3) | ⑤ | ア | (4) | ⑥ | エ | | | | | | | | | |
| 2 2×7 | (1) | ⑦ | イ | (2) | ⑧ | エ | (3) | ⑨ | ア | (4) | ⑩ | ウ | ⑪ | エ | | | | |
| | (5) | ⑫ | イ | ⑬ | エ | | | | | | | | | | | | | |
| 3 2×5 | (1) | ⑭ | ア | ⑮ | カ | | (2) | ⑯ | エ | (3) | ⑰ | ウ | (4) | ⑱ | イ | | | |
| 4 2×10 | (1) | ⑲ | ア | (2) | ⑳ | ウ | (3) | ㉑ | エ | (4) | ㉒ | ア | | | | | | |
| | (5) | ㉓ | イ | (6) | ㉔ | ウ | (7) | ㉕ | ア | (8) | ㉖ | オ | | | | | | |
| | (9) | ㉗ | イ | ㉘ | ウ | | | | | | | | | | | | | |
| 5 2×7 | (1) | ㉙ | ア | ㉚ | オ | | ㉛ | ケ | | (2) | ㉜ | イ | | | | | | |
| | (3) | ㉝ | エ | (4) | ㉞ | ウ | ㉟ | オ | | | | | | | | | | |
| 6 2×3 | (1) | ㊱ | イ | (2) | ㊲ | ア | ㊳ | オ | | | | | | | | | | |
| 7 2×2 | (1) | ㊴ | エ | (2) | ㊵ | イ | | | | | | | | | | | | |
| 8 2×10 | (1) | ㊶ | エ | (2) | ㊷ | ア | (3) | ㊸ | オ | (4) | ㊹ | ウ | | | | | | |
| | (5) | ㊺ | オ | (6) | ㊻ | エ | (7) | ㊼ | イ | (8) | ㊽ | エ | | | | | | |
| | (9) | ㊾ | ア | (10) | ㊿ | イ | | | | | | | | | | | | |